



学校だより

平成29年5月31日
横浜市立豊田小学校
6月号

豊田小学校ホームページアドレス <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/toyoda/>

子 浦

校長 瀬尾芳保

満開のツツジが初夏のさわやかな風に揺れ、校庭からは強い日差しに負けず、元気に遊ぶ子どもたちの声が聞こえています。

5月30日には全校で「なかよし遠足」に行きました。入学して約2ヶ月の1年生もグループの6年生に手を引かれ、温かい声かけに励まされて長い道のりを歩き通しました。舞岡公園では1年生から6年生まで一緒に遊んだり、お弁当を食べたりして楽しい1日を過ごしました。当日までなかよしのグループ活動や、遊びの計画など6年生が最高学年としての自覚と行動力を発揮して準備を進めていました。今年度の豊田小学校を自分たちの力でよりよくしていこうという、6年生の強い気持ちを感じる1日になりました。

さて、今年度から5年生の宿泊体験学習を伊豆半島の先端近く、南伊豆町の子浦という所で行うことに変更しました。昨年度までは丹沢の近く、愛川ふれあいの村で行っていましたが、4年生、5年生、6年生と続く宿泊体験活動が山や森、高原といった内陸に偏っていたので、豊田の子どもたちに海の体験活動も経験してほしいと考え、2年間をかけて候補地を絞り最終的に子浦を選びました。

横浜で生活していると子浦という地名はほとんど知られていないので、どこにあるのだろうと思われる方も多いと思います。伊豆急下田駅から路線バスで駿河湾側

に1時間ほどいったところにある小さな港で、夏には海水浴場にもなる波の静かな、とても景色のよいところです。そこに「横浜市少年自然の家南伊豆臨海学園」という横浜市が設置した施設があり、それを利用して宿泊体験学習を行いました。

主な活動の内容は、アジの開きづくり、2人で1本のオールを持ち16人が心を一つにして漕ぐカッター、海の上を自力で自由に移動できるシーカヤック、堤防からの魚釣り、キャンプファイアー等です。2泊3日の日程で、中の1日はずっと海の活動で過ごします。

子浦の海は透明度、色、生き物の豊かさや、周りの景色との調和した美しさといった点で横浜や湘南地域の海とは全く違った印象です。豊かな海と自然にゆっくりとかかわり、その中で改めて友達との協力の大切さや自分の成長に気づき、自信と「やればできる」という気持ちをもってこれからの生活を進めていけることと思います。

体感的な経験を通して得られる、学校の中だけではできない教育活動を、「豊かにかかわり、じっくり考える、キラッと輝く豊田っ子」を目指してこれからも工夫、改善していきたいと考えています。

